

ASEAN グローバルプログラム

中村 大志
Taishi NAKAMURA
電子情報通信課程 2年

1. はじめに

2023年8月26日から9月1日にかけてベトナム、ハノイにてベトナムに進出している日系企業を訪問し、そこで活躍されている日本人の方々との交流を通じて、日本企業のグローバル社会で果たしている役割、海外企業と日本との関わり、海外で仕事をする目的と意義について学修した。また、現地の大学生と交流、意見交換を行い、その国の多様な文化や、外国の学生の学修意識やキャリア意識についても触れ、国際的な視野を養うことを目的とした。

表1 プログラムの日程

8月26日(土)	出国, オリエンテーション
8月27日(日)	キャリアフォーラム, 市内観光
8月28日(月)	大学間交流セレモニー, チームミーティング
8月29日(火)	街頭インタビュー(旧市街地, ロッテホテル周辺), チームミーティング
8月30日(水)	インタビュー(ハノイ工業大学), プレゼンテーション準備
8月31日(木)	プレゼンテーション, 振り返り
9月1日(金)	帰国

2. 参加目的

私が ASEAN グローバルプログラムに参加した目的は自己成長のためである。私はこのプログラムを通じて、新しいアイデアを発想する力やチームワークを身に付け、より広い視野を持つことで、自分自身を成長させたいと考えた。現地の文化や産業に触れ、またベトナムで出会う同世代の方との交流は、受けてきた教育や見解が違う分、多様なアイデアや角度でのひらめきにつながり、新しいアイデ

ィアを発想する力が身に付くのではと考えた。自分が持っているアイデアを発展させるための最適な環境だと思った。また、現地企業に訪問し課題の解決案を検討することは、大学での勉強がどのように社会問題と繋がるか実感できる機会に加えて、ベトナムでの生活は、これ以上ない英語のアウトプットの場なので、今までの勉強が通用するか試す機会だと思い積極的に挑戦したい。以上の理由より受講を希望した。

3. 研修内容

今回のプログラムでは表1にて示したように、キャリアフォーラム及びハノイ工業大学の学生と協力し、ベトナムの交通インフラ課題についての解決案を WILLER 株式会社に提示した。

3.1 キャリアフォーラム

キャリアフォーラムでは、ベトナムで働くビジネスパーソンによる質疑応答の時間を設け、各自質問していく形式で進行した。ビジネスパーソンの中には、日系工場の設計や工場の立ち上げに携わっている方もおり、私自身工場に興味を持っていたこともあり、近年のベトナムに工場を置く企業の増加傾向やその利点など、海外での工場関連について質問をした。また、以前までは、私は日本のような先進国を離れ、発展途上国で働くことは、従業員とのコミュニケーションの問題や部品の取り寄せ問題など、できることの幅が狭まると考えていたが、実際にベトナムで働いている方の話を聞くと、規制に厳しい日本に比べ、寧ろ規制が緩い発展途上国の方ができる仕事の範囲が広がることが意外性を感じた。確かに、日本人は新しい事に対して、悲観的に考える傾向がある一方で、5人のビジネスパーソンはいずれも、興味の赴くままに行動し、仕事に繋がっていると感じた。

3.2 研修

研修では、WILLER 株式会社から「ベトナムの

交通課題を解決せよ」という課題を与えられた。プレゼンテーションの評価基準は、他社での事例がないような新規性、一企業でもできる実現性、企業として利益を得ることができるのかという事業性の三点に分類されている。私たちはこの課題に対して、出国前に三回の事前学習を通じて、班ごとに大まかな方向性やアイデアを考えていた。しかし、実際にベトナムに到着し、現地の交通状態を見ると、出国前に考えていた問題以外の課題も多く見つかった。そこで、私たちの班はベトナムの排気ガスの問題に着目した。ベトナム人の多くは交通手段として、バイクを利用しており、それ故にベトナムの排気ガスは多く世界で最も空気が汚い国ともいわれている。この問題は深刻化しており、政府は2030年までにバイクの利用制限を設けることを宣言している。確かに、電車などの公共交通機関を普及すれば必然的にバイクの利用者も減り、この問題は解決するが、実現性の観点から一企業でできることの限界を超えると考え、私たちはこの課題に対して、電動バイクを軸に事業を考え、Google フォームを活用し街頭インタビューから、ベトナム人の大多数（アンケート結果の87%は電動バイクに賛成）はガソリンバイクより環境に優しい電動バイクを使った方が良く考えている一方で、電動バイクを利用しているベトナム人の割合は22%であった。電動バイクを利用しない理由として、充電場所が少なすぎる、充電時間が長すぎる、自身でバッテリーを管理することへの抵抗感があるなど充電に関する理由が多数挙げられた。この結果から、私たちバッテリーを共有化する事業について考えた。最終的に、私たちは既存のガソリンスタンドや商業施設にバッテ

リー交換機械を設置し、月額制の電動バイクバッテリー交換サービスを提案した。このサービスに併用して、定額で充電サービスを利用し放題でき、位置情報を利用することで、近隣の充電スポットを探することができる機能を備えているスマートフォンのアプリケーションを配信することを考えた。このサービスを利用することで、家での充電、長時間の充電は必要なくなり、より容易に充電場所を見つけやすくなるので、充電関連の問題を解決することができる。また、月額制のサービスでは、利用者の獲得の観点では有利ですが、事業性の観点では課題があります。そこで、アプリ内広告の導入及びバッテリーの保険、ベトナムでは頻繁に電力不足が起こることから電力不足の際の、電力提供のような追加サービスを設けることで、事業性の向上を図った。図った。最終的に、私たちの班の提案は優勝する事はできなかったものの、ベトナム人学生と仮説を立て、街頭インタビューを通して検証し、その結果をもとに考察し、サービスのアイデアを考える過程にこそ価値があったと感じている。

4. おわりに

日本では少子高齢化が進んでいることもあり、外国人労働者の受け入れが進んでおり、以前と比べ外国人労働者と働く機会が多くなることが予測できる。外国人労働者に対して、日本人同様に接すると、外国人労働者と働くことの利点を最大限に活かせない。なので、ASEAN グローバルプログラムでの、外国人と協力して課題に取り組んだ経験は、これからの多様性が増す社会で通用する働き方が身に付く貴重な経験になった。